

### 第3期苫小牧市役所エコオフィスプラン運用実績（令和4年度実績）

第3期苫小牧市役所エコオフィスプランに基づき、市役所全施設の事務・事業活動に伴う温室効果ガス排出量を公表します。また、参考値として、エネルギー使用量についても公表します。

温室効果ガス排出量は 54,399 t-CO<sub>2</sub> となり、基準年度に比べ 8.3%の減少となりました。

#### (1) 温室効果ガス排出量について

表 排出区分別温室効果ガス排出量

	基準年度(25年度)	令和4年度		目標値(令和7年度)	
	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	増減 (基準年度比)	t-CO <sub>2</sub>	達成率 (令和4年度)
市長部局	30,507	29,601	-3.0%	29,104	98.3%
教育部局	11,238	12,389	10.2%	10,721	86.5%
自動車	592	538	-9.1%	565	105.0%
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	42,337	42,528	0.5%	40,390	95.0%
非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	17,016	11,871	-30.2%	15,890	133.9%
合計	59,353	54,399	-8.3%	56,280	103.5%

※ 非エネルギー起源 CO<sub>2</sub>はプラスチック類燃焼による排出量です。

※ 電力二酸化炭素排出係数は 25 年度（基準年度）の値を使用しています。なお、電力二酸化炭素排出係数とは、1キロワット時の電気を発電したときの CO<sub>2</sub> 排出量であり、北海道電力欄の値を使用しています。

#### <エネルギー起源 CO<sub>2</sub>>

エネルギー起源 CO<sub>2</sub>の排出量は基準年度と比べて 0.5%増加しました。

主な要因として、コロナ対策の緩和に伴い各施設の稼働時間が対策以前の水準に戻ったことや、冬季間の換気が引き続き行われていることが挙げられます。

#### <非エネルギー起源 CO<sub>2</sub>>

非エネルギー起源 CO<sub>2</sub>の排出量は、市が収集し、焼却した一般廃棄物に含まれるプラスチック類の燃焼により発生したもので、基準年度と比べて 30.2%減少しました。

主な要因として、平成 25 年 7 月から開始した家庭ごみの有料化により、分別の意識が高まりプラスチックごみ類の焼却量が大幅に減少したことが挙げられます。

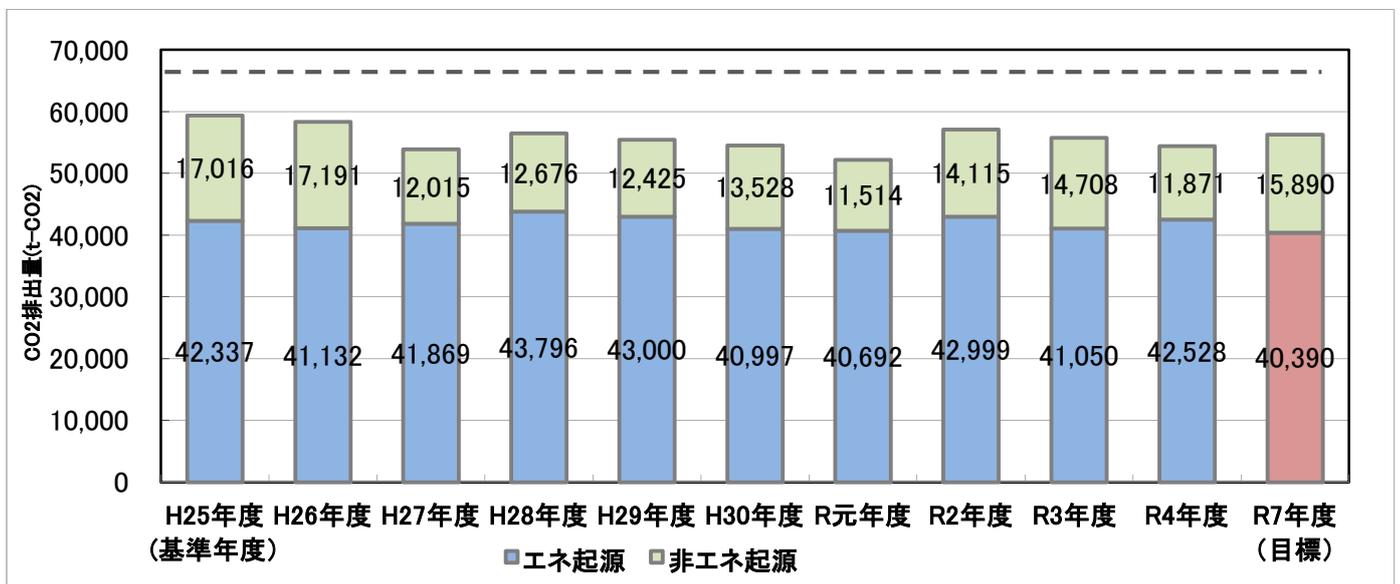


図1 温室効果ガス排出量の推移

## (2) エネルギー使用量について (参考値)

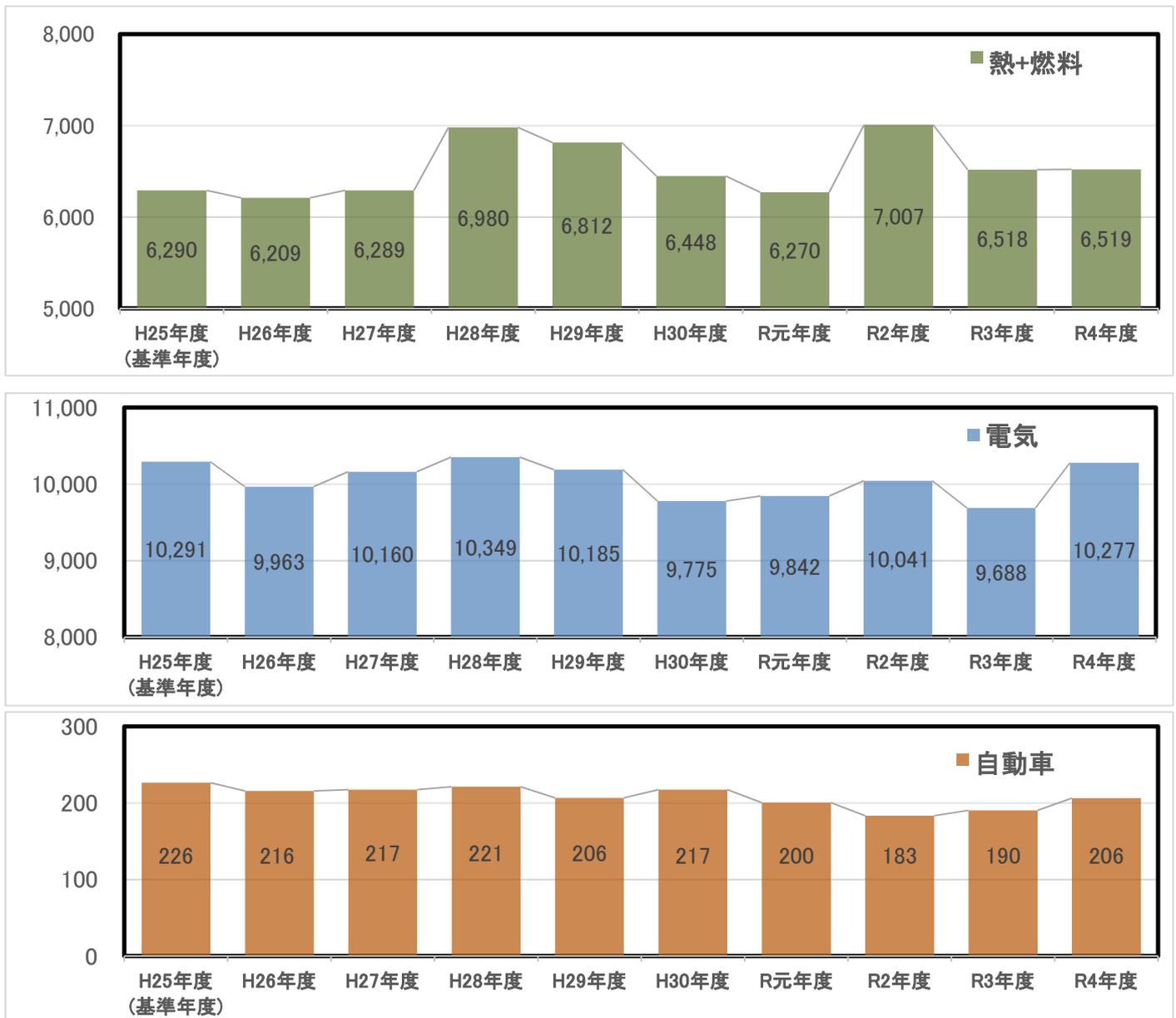


図2 エネルギー使用量 (原油換算) の推移

### <燃料燃焼・熱供給>

燃料燃焼及び熱供給によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて3.6%の増加となりました。

一部施設では使用エネルギーの変更 (熱供給→都市ガス) により減少しましたが、対象施設数の増加や、コロナ対策に伴う冬季間の換気が引き続き行われていることによる増加が見られます。

### <電気使用>

電気使用によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて0.1%の減少となりました。

前年度比では、各施設の稼働時間の増に加え、設備改修等による自家発電率の減少などにより、買電量は増加しましたが、省エネ機器 (LED 照明等) の導入により基準年度と同程度の水準に収まりました。

### <自動車使用>

自動車使用によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて9.4%の減少となりました。

コロナ対策以前の使用水準に戻りつつも、エコドライブ意識の定着、公用車の低燃費化が進んでいることが挙げられます。